

大学院修士課程 公衆衛生看護学
上級実践コース（保健師国家試験受験資格取得）
・修士論文コース

ST. LUKE'S
INTERNATIONAL
UNIVERSITY

Do your best , and it must be first class



入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

建学の精神および教育目標に賛同し、その一翼を担おうとする意欲ある人材を受け入れる。受け入れに当たっては、国籍・宗教・障がい等を問わず、最大限妥当かつ公平な方法によって選抜する。

1. 関心ある看護現象を解き明かす意欲をもっている人
2. 自ら学ぶことができる人
3. 物事を論理的に考えることができる人
4. 自分の考えを正確に表現できる人
5. 物事を柔軟に考えることができる人
6. 変化を楽しみ、変化を起こす意欲をもっている
7. なお、修士課程の高度実践家育成コースは、看護職の免許を有する者に限る

大学院での学び

博士前期(修士)課程

- 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学の分野における研究能力または高度の専門性を要する看護の実践および看護教育に携わる者等に必要な高度の能力を養うことを目標にしています。
- カリキュラムは、専門科目を学び深めるために必要となる看護学の基礎的理論や研究技法、ならびに関連諸科学の理論や技法を学ぶ基盤分野と、専門分野から構成されています。

大学院 専攻およびコース

＜看護学専攻＞

修士論文コース:

- 各分野での専門性を高め、研究能力の開発を目指すコースです。修士論文を作成し、修士論文審査および最終試験があります。18の専門分野を開講しています。

上級実践コース:

- 看護ケアや看護管理のスペシャリストとして、より専門性を深めた実践能力の開発を目指すコースです。実習と特定の課題についての研究成果の審査および最終試験があります。13の専門分野を開講しています。

※保健師国家試験受験資格取得コース

修了時に期待される能力

公衆衛生看護学上級実践コースは
高い実践力とリーダーシップを備えた保健師を育成します

保健師は、人々の健康で幸せな生活を実現するために、地域や職場の複雑で多様な健康課題に取り組んでいく専門職です。

本学では、主体的な授業や実習を通して、保健師として必要な知識や技術、専門職としての姿勢を身につけることを目標とします。

また、修士論文コースの学生とともに研究方法を学ぶことにより、研究結果を現場に生かす能力と、現場の問題を研究の中で探究する能力を育みます。

このような学習環境を通して、保健師活動で直面する課題に柔軟に取り組む、向き合い続けることができ、さらに現場でのリーダーシップを取れる人材となるように支援します。

カリキュラム(修士課程)

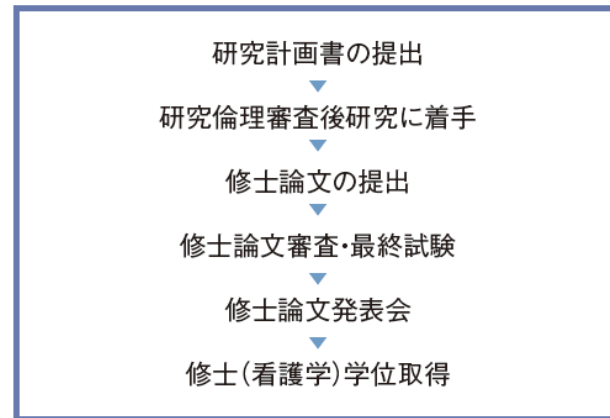
■ 博士前期課程(修士)

看護理論	フィジカルアセスメント
看護学研究法I	心理学方法論I
看護学研究法II	社会学方法論I
看護倫理	応用統計学
生命倫理	診断・治療学
応用形態機能学	臨床遺伝学
病態生理学	特別講義I
臨床薬理	特別講義II

基盤分野

M1		
看護学専攻		
看護心理学	看護管理学	がん看護学・緩和ケア
看護社会学	遺伝看護学	精神看護学
看護情報学	小児看護学	在宅看護学
看護統計学	急性期看護学	公衆衛生看護学
基礎看護学	慢性期看護学	国際看護学
看護技術学	老年看護学	周麻酔期看護学
看護教育学		
ウィメンズヘルス・助産学専攻		
ウィメンズヘルス	助産学	

専門分野



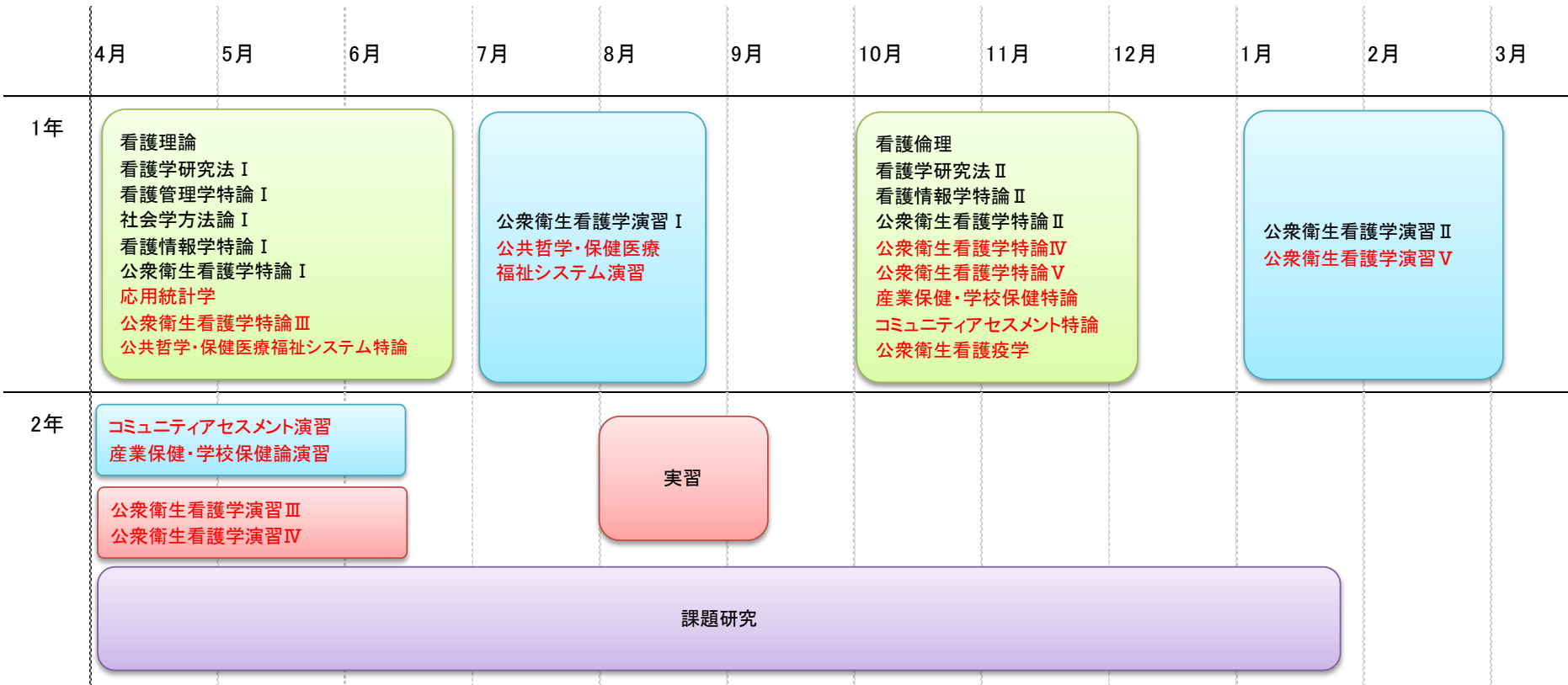
M2	特別看護研究 (修士論文コース)	課題研究・実習 (上級実践コース)
----	---------------------	----------------------

PHNコース 履修科目例

赤字:保健師指定規則科目(28単位)・黒字:大学院修士科目(32単位)

		講義	演習	実習	研究
1年	前期	看護理論(2単位) 看護学研究法Ⅰ(2単位) 看護管理学特論Ⅰ(2単位) 社会学方法論Ⅰ(2単位) 看護情報学特論Ⅰ(2単位) 公衆衛生看護学特論Ⅰ(2単位) 応用統計学(2単位) 公衆衛生看護学特論Ⅲ(2単位) 公共哲学・保健医療福祉システム特論(2単位)	公衆衛生看護学演習Ⅰ(2単位) 公共哲学・保健医療福祉システム演習(1単位)		
	後期	看護倫理(2単位) 看護学研究法Ⅱ(2単位) 看護情報学特論Ⅱ(2単位) 公衆衛生看護学特論Ⅱ(2単位) 公衆衛生看護学特論Ⅳ(2単位) 公衆衛生看護学特論Ⅴ(2単位) 産業保健・学校保健特論(2単位) コミュニティアセスメント特論(2単位) 公衆衛生看護疫学(2単位)	公衆衛生看護学演習Ⅱ(2単位) 公衆衛生看護学演習Ⅴ(2単位)		
2年	前期		コミュニティアセスメント演習(2単位) 産業保健・学校保健論演習(2単位)	公衆衛生看護学演習Ⅲ(2単位) 公衆衛生看護学演習Ⅳ(3単位)	
	後期			実習(6単位)	課題研究(2単位)

PHNコース 2年間の流れ



大学院生の論文テーマ一覧(修士論文)

- 2013年度** 保健師が行う未熟児・低出生体重児を育てる家族への支援の構造
- 2012年度** 生活習慣病のリスクがある女性の健康に関する意識の構造 ～産後の生活に焦点を当てて～
- 2010年度** 母子継続支援のための助産師と保健師の連携システムの構造
生活習慣病予防のための対象者中心の保健指導を実践する看護職の技術
保健師がプリセプターの役割を担うことによる学び: 自身と組織の変革
大学の保健管理に携わる看護職の役割
- 2009年度** 事務職上司から見た保健師への役割期待
在日中国人女性の異文化における育児経験: 困難と対処のプロセス
地域住民が精神障害者と関係をつくるプロセス ～専門職が関わった事例から～
- 2007年度** 「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討
- 2006年度** 都市部における地域密着型無床診療所において看護師が働き続ける理由とその方法
- 2005年度** 在宅高齢者を看取る家族を支援した訪問看護師の看護観
市町村保健師にとって事業委託することの意味

大学院生の論文テーマ一覧 (上級実践コース 課題研究)

2011年度

要介護高齢者の家族介護者における抑うつに関する文献検討

保健師とホームヘルパーの協働のプロセス

—A町の災害時アセスメントツールの作成を通して—

2008年度

65歳以上高齢者におけるうつに関連する要因の分析

—特定高齢者判定項目を中心に—

がん末期患者を支える在宅緩和ケアチームの構築過程と訪問看護師のかかわり

2007年度

精神疾患が疑われる患者の精神科受診に至る過程において用いた保健師の援助技術

2006年度

訪問看護師の対象の「どう生活したいのか」という意向への気づきとそのプロセス

—対象者と訪問看護師との意向が食い違う事例の分析を通して—

2005年度

訪問看護ステーションのカンファレンスで活用するための事例提供ツールの開発と評価

大学院生の論文テーマ一覧(博士論文)

- 2014年度** 東日本大震災で大津波被害を受けた透析患者の体験
首都圏在住の定年退職した男性が地域とのつながりを構築していく理論の生成
Directly Observed Treatment, Short-Course (DOTS) による服薬療養支援と
結核患者の療養生活との関連
- 2013年度** 中高年者における犬の飼育と健康認識と地域参加のモデル構築・検証
行政保健師の離職意図に関連する「仕事の要求」と「仕事の資源」
-Job demands-Resources Modelによる分析 -
新生児家庭訪問における保健師の気になる家族を見いだす方法の構造
- 2008年度** 末期がん患者の配偶者への「情報提供ガイドを用いた在宅移行支援プログラム」
の開発
家族介護者に対して行うグリーフケアと先行要因、アウトカムの関連
-訪問看護ステーションに勤務する看護師への全国調査から-
- 2007年度** 退院直後の家族介護者が病人とともにある生活を創出するプロセス
- 2004年度** 大企業を定年退職した高齢男性の退職移行期におけるヘルスプロモーション
日本における前期高齢女性の家族以外の身近な他者との交流関係と健康認識
の関連

科目の紹介①

【公共哲学・保健医療福祉システム特論】

日本の保健医療福祉に関する法・制度の基本理念としてのJustice論、および公共哲学を理解し、法や制度を実現するしくみとしての行政、保健医療福祉の法や制度の種類や内容、政策のためのPDCAサイクルを理解する。これらを踏まえ、法や制度を具体化し、開発する公衆衛生看護実践の方法と保健師が行う効果的な政策化のプロセスの理解を深める

- ・保健医療福祉システムの目標と理念
- ・公共哲学とは何か、Justice論について
- ・功利主義、リベタリアニズム
- ・リベラリズム、コミュニタリアニズム
- ・公衆衛生と保健医療福祉行政
- ・保健医療福祉の計画・実施・評価と政策のためのPDCAサイクル
- ・保健医療福祉の法・制度を具体化し、開発する公衆衛生看護実践の方法
- ・行政組織の特徴と意思決定、地域づくりの方法論



科目の紹介②

【公衆衛生看護学 特論Ⅱ】

公衆衛生看護における課題解決やエビデンスに基づく実践(健康プログラム開発など)のために、Evidence-Based Medicine/Public Health(EBM/PH)の手法を学び、実践に適用する力を育成する。

- ・公衆衛生看護実践とエビデンス
- ・EBM/PHとは
- ・EBM/PHのステップ1:問題の定式化
- ・EBM/PHのステップ2:文献検討(RCT)
- ・EBM/PHのステップ3:リサーチエビデンスの吟味
- ・EBM/PHのステップ4:実践への適用
- ・健康の社会的決定要因、健康格差と社会疫学

科目の紹介③

【公衆衛生看護学 特論Ⅲ】

公衆衛生看護の目的と基本理念、Professionalismと公的責務、対象の捉え方、対象との協働関係と支援姿勢、文化と多様性の理解とそれらを尊重した活動、健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health)と今日的健康課題に取り組むための方法論について探究する。

- ・Professionalismと公的責務、対象のとらえ方と協働関係のあり方
- ・公衆衛生、公衆衛生看護における倫理的課題
- ・公衆衛生看護の倫理と専門職としての保健師・事務職との協働
- ・住民・関係者との協働
- ・公平な保健福祉サービスの分配
- ・契約に基づかない支援
- ・法・制度と人権の狭間
- ・保健医療福祉の地域格差
- ・公衆衛生看護と倫理:放射線看護に焦点を当てて

公衆衛生看護学教室での学び



地域看護・公衆衛生看護学研究会

大学院生による自主的な勉強会です。
大学院生の研究テーマに関する発表や、
国内外の研究者の講義などを企画しています。



研究室で取り組んでいる研究の一例

保健師の活動と放射線

○ トップページ

○ 代表者の挨拶

○ 概要・実施体制

○ 目的・特色

○ 活動報告

○ 保健師の方へ

○ 一般の方へ

○ Q&A

○ リンク集

○ 資料室

○ 主催



[トップページ](#) » [保健師の方へ](#) » リフレット「放射線と健康②」を一部修正しました

リーフレット「放射線と健康②」を一部修正しました

リーフレット「放射線と健康②」の内容を一部修正しました。修正版はPDFにてダウンロードできます。(2015年3月更新)

リーフレット 「放射線と健康」



「放射線と健康」のリーフレットを6種類を公開しています。それぞれ、PDFにてダウンロードできます。(2015年2月更新)



【放射線と健康②】

「おいしい水を飲んで、健康に過ごしましょう！」(1.46MB)

*一部内容を修正しました。(2015年3月)
主な修正点は以下の通りです。

平成25年度活動報告

進学の相談窓口

公衆衛生看護学の学問の向上と、実践への貢献のため、一緒に学びを深めていきませんか。
詳しくは、麻原（asahara@slcn.ac.jp）まで
ご相談ください。

オープンキャンパスでも相談ブースを設置します！
2015年6月20日（土）・8月1日（土）・2日（日）
詳しくは教室ホームページで

聖路加国際大学
地域看護・公衆衛生看護学教室
<http://slcnchn.umin.jp/chn/top.html>